

〈すしん〉景況レポート

No.20 2022年5月

CONTENTS

景気動向調査

2022年1～3月期実績、2022年4～6月期予想

特別調査 原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について

- 原材料・仕入価格の上昇により多くの企業が収益に悪影響を受けている
- 1年前と比較した原材料・仕入価格は、7割強の企業で10%以下の上昇
- 原材料・仕入価格の上昇を、販売価格にある程度転嫁できている企業が多い
- 各種資材や製商品の量や質の確保については、「確保できている」が43.2%で最多
- 仕入先の見直し等を検討するにあたって重視する点は、「日頃からの付き合い・紹介」

地域をつなぎ、地域と共に歩む

 須賀川信用金庫

景気動向調査

2022年1～3月期実績、2022年4～6月期予想

概況




































業況判断DIは悪化、 来期も悪化する見込み

今期の全業種業況判断DIは、▲24.5と前期から3.0ポイントの悪化となった。

製造業は前期比9.2ポイント悪化し▲15.4、卸売業は同12.5ポイント悪化し▲12.5、小売業は同15.9ポイント悪化し▲36.7、サービス業は同9.1ポイント改善し▲20.9、建設業は同13.3ポイント悪化し▲3.8となった。

来期の全業種業況判断DIは▲34.5で、今期比10.0ポイントの悪化を見込んでいる。

業種別では小売業で改善、卸売業で横ばいを見込んでいるが、それ以外の業種では悪化を見込んでいる。

業況DI	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
全体	 ▲19.3	 ▲21.5	 ▲24.5	 ▲34.5	
製造業	 ▲3.1	 ▲6.2	 ▲15.4	 ▲26.5	
非製造業	 ▲16.7	 ▲11.6	 ▲18.7	 ▲23.5	
卸売業	 ▲12.5	0.0	 ▲12.5	 ▲12.5	
小売業	 ▲30.4	 ▲20.8	 ▲36.7	 ▲32.7	
サービス業	 ▲30.0	 ▲30.0	 ▲20.9	 ▲37.5	
建設業	9.8	9.5	 ▲3.8	 ▲5.7	
不動産業	 ▲40.0	0.0	0.0	 ▲25.0	

低調 ←      → 好調

調査要領

1. 調査時期 2022年3月上旬～中旬
2. 調査対象 須賀川・岩瀬地区・石川地区の当金庫取引先(法人・個人事業者)
3. 調査方法 各営業店職員による聞き取り調査
4. 分析方法 各質問事項で「増加」(上昇)したとする企業の全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(判断DI)を中心として分析を行った。

	調査先	回答先	回答率
製造業	65	65	100.0%
卸売業	16	16	100.0%
小売業	49	49	100.0%
サービス業	48	48	100.0%
建設業	55	53	96.4%
不動産業	5	5	100.0%
合計	238	236	99.2%

全業種総合

●今期(1-3月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化

今期の全業種業況判断DI(良い-悪い)は、前期比3.0ポイント悪化し▲24.5となった。売上額DI(増加-減少)は同11.5ポイント悪化の▲12.3、収益DI(増加-減少)は同2.5ポイント悪化の▲5.9となった。

販売価格DI(上昇-下降)は同2.2ポイント上昇の13.6、仕入価格DI(上昇-下降)は同1.2ポイント低下の24.1となった。在庫DI(過剰-不足)は同1.7ポイント上昇の▲5.8となった。

資金繰りDI(楽-苦しい)は同2.3ポイント改善の▲22.0となった。借入れを実施した企業の割合は10.0%であった。

雇用面では、人手DI(過剰-不足)は同1.4ポイント上昇の▲30.2と、人手不足とする企業の割合は依然として高水準が続いている。また、設備投資を実施した企業の割合は10.5%であった。

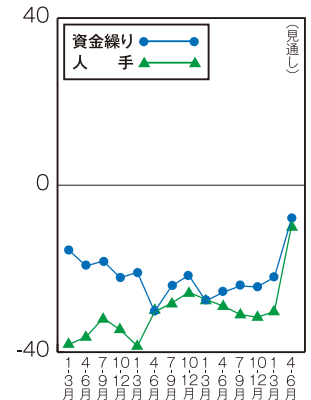
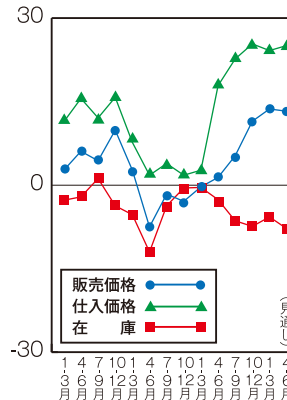
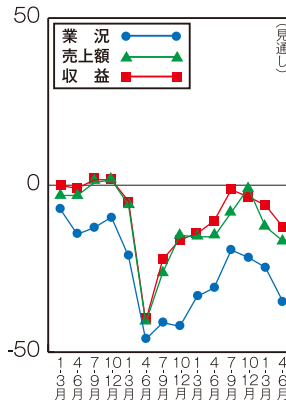
	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	▲19.3	▲21.5	▲24.5	▲34.5	↘
売上額	▲8.1	▲0.8	▲12.3	▲16.5	↘
収益	▲1.3	▲3.4	▲5.9	▲12.3	↘
販売価格	5.2	11.4	13.6	13.2	↘
仕入価格	22.6	25.3	24.1	25.0	↗
在庫	▲6.5	▲7.5	▲5.8	▲7.9	↘
資金繰り	▲24.1	▲24.3	▲22.0	▲8.0	↗
人手	▲30.9	▲31.6	▲30.2	▲9.7	↗

●来期(4-6月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化する見込み

来期の全業種業況判断DIは今期比10.0ポイント悪化の▲34.5、売上額DIは同4.2ポイント悪化の▲16.5、収益DIは同6.4ポイント悪化の▲12.3を見込んでいる。

販売価格DIは同0.4ポイント低下の13.2、仕入価格DIは同0.9ポイント上昇の25.0、在庫DIは同2.1ポイント低下の▲7.9を見込んでいる。



製造業

●今期(1-3月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化

今期の業況判断DIは、前期比9.2ポイント悪化し▲15.4となった。売上額DIは同12.3ポイント悪化の▲3.1、収益DIは同7.6ポイント悪化の▲4.6となった。

販売価格DIは同0.1ポイント低下の13.8、原材料価格DIは同4.6ポイント上昇の41.6、原材料在庫DIは同1.5ポイント低下の0.0となった。

資金繰りDIは同6.2ポイント改善の▲6.1となった。借入れを実施した企業の割合は6.2%であった。

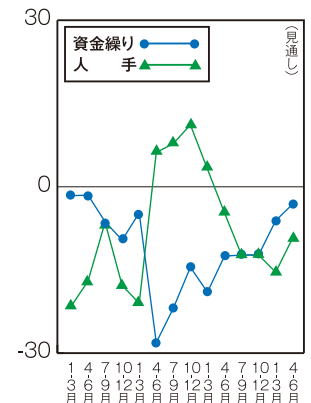
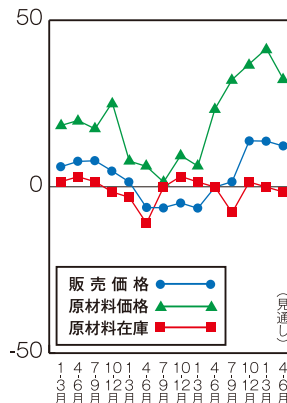
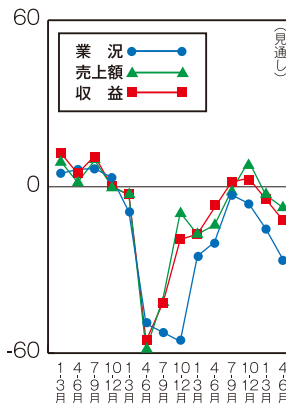
雇用面では、人手DIは同3.1ポイント低下の▲15.4となった。また、設備投資を実施した企業の割合は17.0%であった。

	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	▲3.1	▲6.2	▲15.4	▲26.5	↘
売上額	▲1.5	9.2	▲3.1	▲7.7	↘
収益	1.6	3.0	▲4.6	▲12.3	↘
販売価格	1.6	13.9	13.8	12.3	↘
原材料価格	32.3	37.0	41.6	32.3	↘
原材料在庫	▲7.7	1.5	0.0	▲1.5	↘
資金繰り	▲12.3	▲12.3	▲6.1	▲3.1	↗
人手	▲12.3	▲12.3	▲15.4	▲9.2	↗

●来期(4-6月)

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化する見込み

来期の業況判断DIは今期比11.1ポイント悪化の▲26.5、売上額DIは同4.6ポイント悪化の▲7.7、収益DIは同7.7ポイント悪化の▲12.3を見込んでいる。販売価格DIは同1.5ポイント低下の12.3、原材料価格DIは同9.3ポイント低下の32.3、原材料在庫DIは同1.5ポイント低下の▲1.5を見込んでいる。雇用面では、人手不足とする企業の割合は同6.2ポイント改善し▲9.2となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は20.8%であった。



経営上の問題点

売上の停滞・減少	18.9%
同業者間の競争の激化	16.4%
原材料高	

当面の重点経営施策

販路を広げる	29.9%
経費を節減する	27.4%
情報力を強化する	12.0%

非製造業 ※不動産業は、調査対象先が少ないため業種ごとのDIは掲載しておりません。

●卸売業

●今期（1-3月）

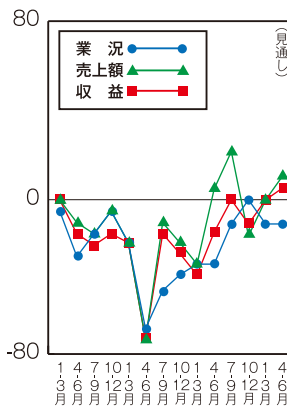
業況判断DIは悪化、売上額・収益DIはともに改善

今期の業況判断DIは、前期比12.5ポイント悪化し▲12.5となった。
 売上額DIは同18.7ポイント改善の0.0、収益DIは同12.5ポイント改善の0.0となった。
 販売価格DIは前期と変わらず0.0、仕入価格DIは同12.5ポイント低下の12.5、在庫DIは同12.5ポイント上昇の0.0となった。資金繰りDIは同18.8ポイント改善の▲6.2となった。借入れを実施した企業の割合は6.3%であった。
 雇用面では、人手DIは前期と変わらず0.0で適正となった。また、設備投資を実施した企業の割合は14.3%であった。

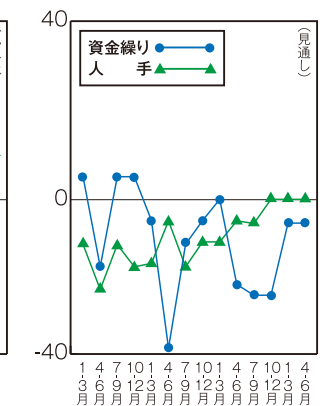
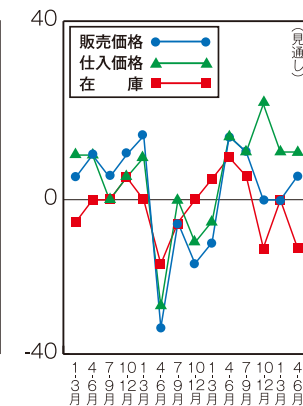
●来期（4-6月）

業況判断DIは横ばい、 売上額・収益DIは改善する見込み

来期の業況判断DIは今期と変わらず▲12.5、売上額DIは同12.5ポイント改善の12.5、収益DIは同6.2ポイント改善の6.2を見込んでいる。
 販売価格DIは同6.2ポイント上昇の6.2、仕入価格DIは今期と変わらず12.5、在庫DIは同12.5ポイント低下の▲12.5を見込んでいる。
 雇用面では、人手DIは今期と変わらず0.0で適正となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は7.1%であった。



	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	▲12.5	0.0	▲12.5	▲12.5	→
売上額	25.0	▲18.7	0.0	12.5	↗
収益	0.0	▲12.5	0.0	6.2	↗
販売価格	12.5	0.0	0.0	6.2	↗
仕入価格	12.5	25.0	12.5	12.5	→
在庫	6.2	▲12.5	0.0	▲12.5	↘
資金繰り	▲25.0	▲25.0	▲6.2	▲6.2	→
人手	▲6.3	0.0	0.0	0.0	→



経営上の問題点

売上の停滞・減少	22.2%
同業者間の競争の激化	
利幅の縮小	14.8%

当面の重点経営施策

経費を節減する	32.1%
販路を広げる	28.6%
情報力を強化する	10.7%

●小売業

●今期（1-3月）

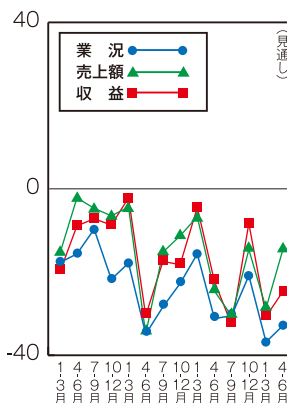
業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化

今期の業況判断DIは、前期比15.9ポイント悪化し▲36.7となった。
 売上額DIは同14.0ポイント悪化の▲28.6、収益DIは同22.3ポイント悪化の▲30.6となった。販売価格DIは同8.1ポイント上昇の10.2、仕入価格DIは同7.7ポイント上昇の30.6、在庫DIは同4.1ポイント低下の▲6.2となった。資金繰りDIは同2.4ポイント改善の▲18.4となった。借入れを実施した企業の割合は4.1%であった。
 雇用面では、人手DIは同2.0ポイント上昇の0.0で適正となった。また、設備投資を実施した企業の割合は2.1%であった。

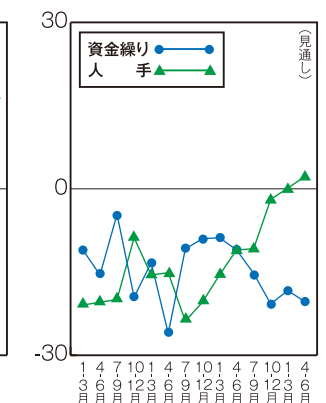
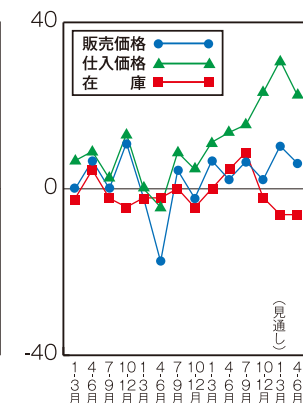
●来期（4-6月）

業況判断・売上額・収益DIは いずれも改善する見込み

来期の業況判断DIは今期比4.0ポイント改善の▲32.7、売上額DIは同14.3ポイント改善の▲14.3、収益DIは同6.1ポイント改善の▲24.5を見込んでいる。
 販売価格DIは同4.1ポイント低下の6.1、仕入価格DIは同8.2ポイント低下の22.4、在庫DIは今期と変わらず▲6.2を見込んでいる。
 雇用面では、人手DIは同2.1ポイント上昇の2.1でわずかに人手過剰となる見込み。また、設備投資の実施を予定している企業の割合は6.3%であった。



	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	▲30.4	▲20.8	▲36.7	▲32.7	↗
売上額	▲30.5	▲14.6	▲28.6	▲14.3	↗
収益	▲32.6	▲8.3	▲30.6	▲24.5	↗
販売価格	6.5	2.1	10.2	6.1	↘
仕入価格	15.3	22.9	30.6	22.4	↘
在庫	8.7	▲2.1	▲6.2	▲6.2	→
資金繰り	▲15.3	▲20.8	▲18.4	▲20.4	↘
人手	▲10.9	▲2.0	0.0	2.1	↗



経営上の問題点

売上の停滞・減少	24.5%
同業者間の競争の激化	13.8%
大型店との競争の激化	10.6%
商圏人口の減少	

当面の重点経営施策

経費を節減する	33.7%
宣伝・広告を強化する	18.1%
売れ筋商品を取扱う	14.5%

●サービス業

●今期（1-3月）

業況判断DIは改善、売上額・収益DIは悪化

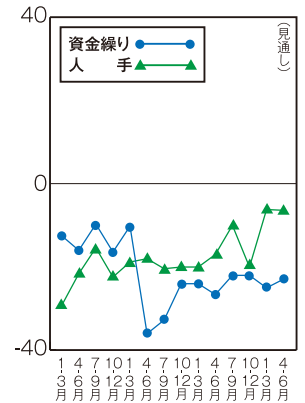
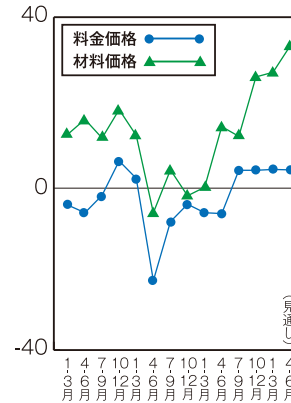
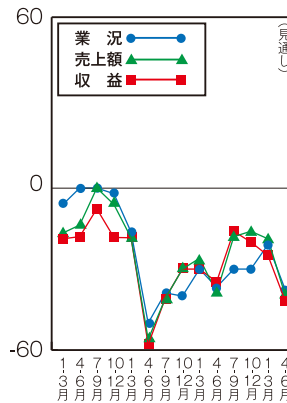
今期の業況判断DIは、前期比9.1ポイント改善の▲20.9となった。
 売上額DIは同2.8ポイント悪化の▲18.8、収益DIは同5.0ポイント悪化の▲25.0となった。料金価格DIは同0.2ポイント上昇の4.2、材料価格DIは同1.1ポイント上昇の27.1となった。資金繰りDIは同3.0ポイント悪化の▲25.0であった。借入れを実施した企業の割合は6.3%であった。
 雇用面では、人手DIは同13.8ポイント上昇の▲6.2となった。また、設備投資を実施した企業の割合は6.5%であった。

	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	▲30.0	▲30.0	▲20.9	▲37.5	→
売上額	▲18.0	▲16.0	▲18.8	▲39.6	→
収益	▲16.0	▲20.0	▲25.0	▲41.7	→
料金価格	4.0	4.0	4.2	4.1	→
材料価格	12.0	26.0	27.1	33.3	↗
資金繰り	▲22.0	▲22.0	▲25.0	▲22.9	↗
人手	▲10.0	▲20.0	▲6.2	▲6.4	→

●来期（4-6月）

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化する見込み

来期の業況判断DIは今期比16.6ポイント悪化の▲37.5、売上額DIは同20.8ポイント悪化の▲39.6、収益DIは同16.7ポイント悪化の▲41.7を見込んでいる。
 料金価格DIは同0.1ポイント低下の4.1、材料価格DIは同6.2ポイント上昇の33.3を見込んでいる。
 雇用面では、人手不足とする企業の割合は同0.2ポイント悪化の▲6.4となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は8.7%であった。



経営上の問題点	割合
売上の停滞・減少	26.1%
同業者間の競争の激化	14.8%
人手不足	13.6%
利幅の縮小	

当面の重点経営施策	割合
販路を広げる	27.3%
経費を節減する	
宣伝・広告を強化する	15.9%

●建設業

●今期（1-3月）

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化

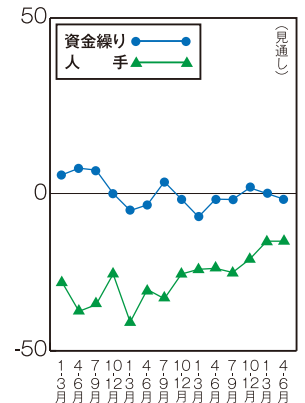
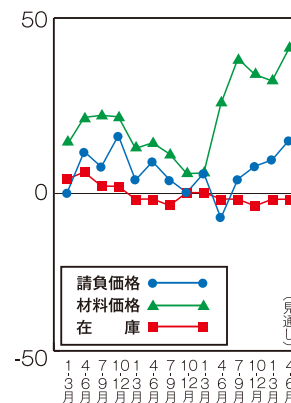
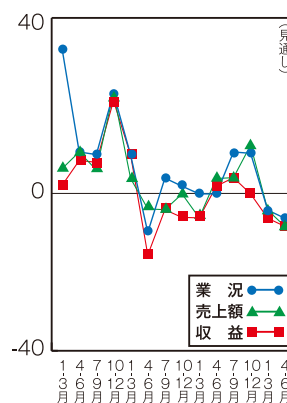
今期の業況判断DIは、前期比13.3ポイント悪化し▲3.8となった。
 売上額DIは同15.2ポイント悪化の▲3.8、収益DIは同5.7ポイント悪化の▲5.7となった。請負価格DIは同1.8ポイント上昇の9.4、材料価格DIは同1.8ポイント低下の32.1、在庫DIは同1.9ポイント上昇の▲1.9となった。資金繰りDIは同1.8ポイント悪化の0.0となった。借入れを実施した企業の割合は9.4%であった。
 雇用面では、人手DIは同5.7ポイント上昇の▲15.1となった。また、設備投資を実施した企業の割合は5.7%であった。

	2021年 7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月 (予想)	方向
業況判断	9.8	9.5	▲3.8	▲5.7	→
売上額	3.8	11.4	▲3.8	▲7.6	→
収益	3.8	0.0	▲5.7	▲7.6	→
請負価格	3.9	7.6	9.4	15.1	↗
材料価格	38.5	33.9	32.1	41.5	↗
在庫	▲1.9	▲3.8	▲1.9	▲1.9	→
資金繰り	▲1.9	1.8	0.0	▲1.8	→
人手	▲25.0	▲20.8	▲15.1	▲15.1	→

●来期（4-6月）

業況判断・売上額・収益DIはいずれも悪化する見込み

来期の業況判断DIは今期比1.9ポイント悪化の▲5.7、売上額DIは同3.8ポイント悪化の▲7.6、収益DIは同1.9ポイント悪化の▲7.6を見込んでいる。
 請負価格DIは同5.7ポイント上昇の15.1、材料価格DIは同9.4ポイント上昇の41.5、在庫DIは今期と変わらず▲1.9を見込んでいる。
 雇用面では、人手不足とする企業の割合は今期と変わらず▲15.1となる見込み。また、設備投資の実施を予定する企業の割合は11.1%であった。

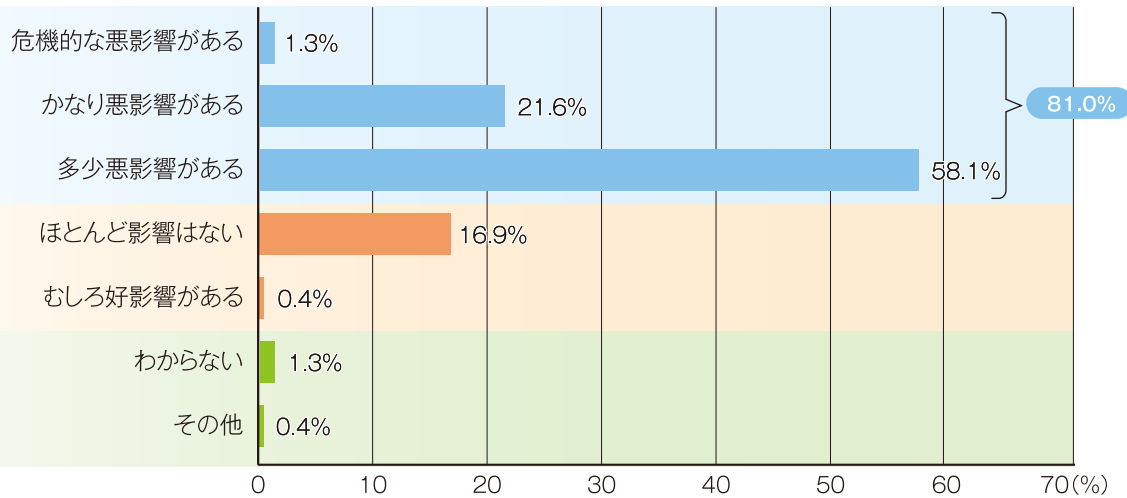


経営上の問題点	割合
材料価格の上昇	23.3%
同業者間の競争の激化	21.7%
売上の停滞・減少	17.5%

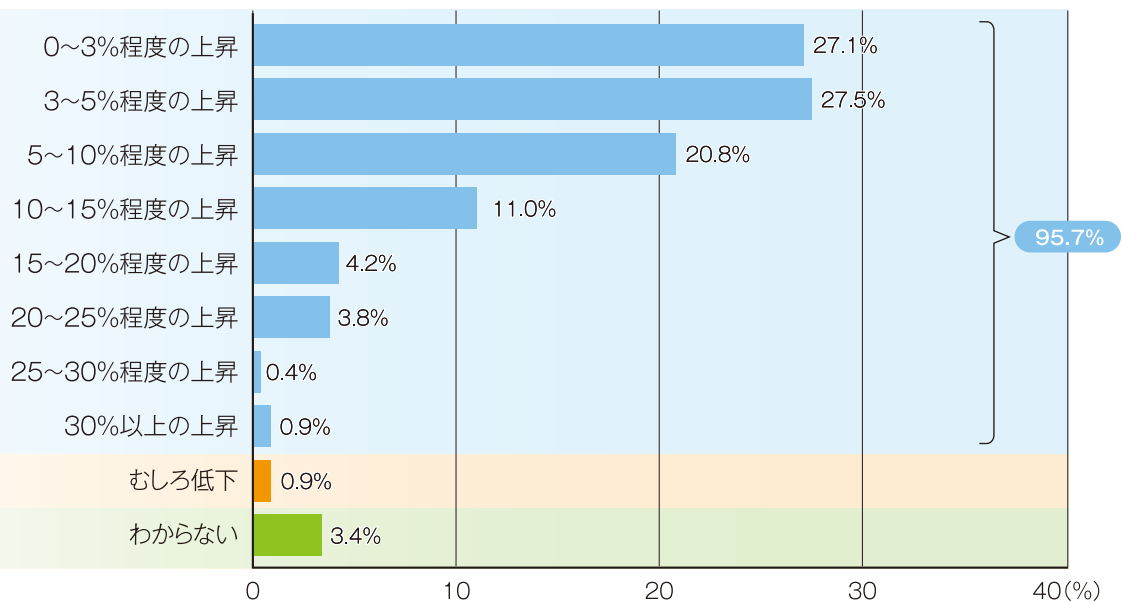
当面の重点経営施策	割合
経費を節減する	28.2%
販路を広げる	19.4%
技術力を高める	17.7%

特別調査 原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について

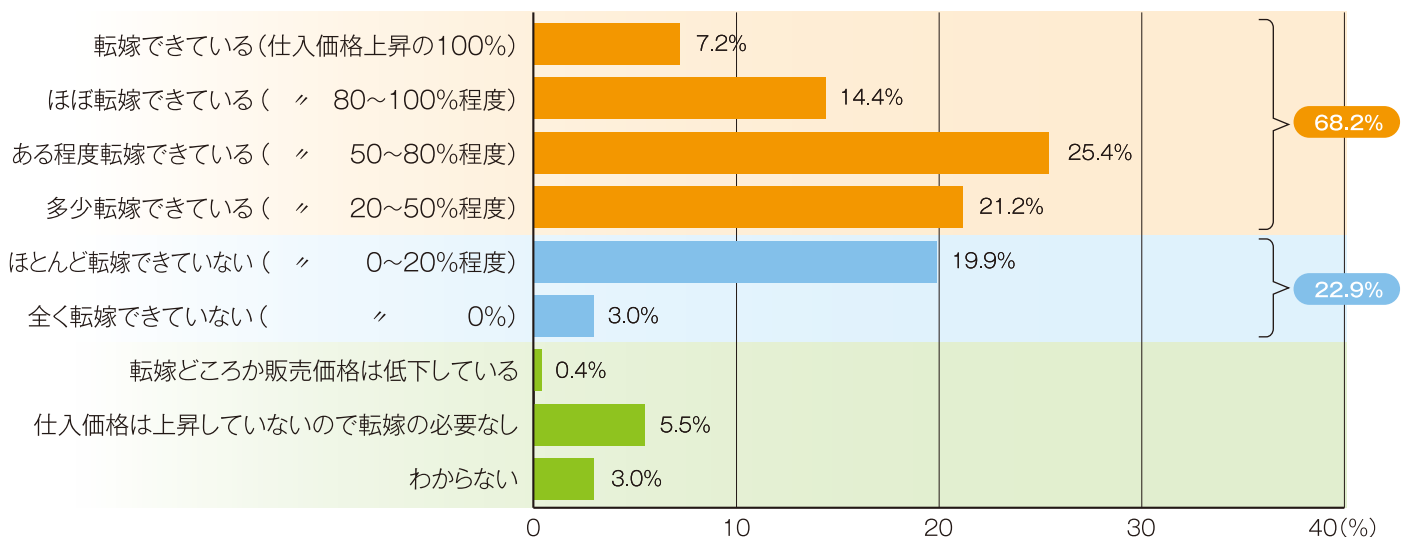
問1 最近の原材料・仕入価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。



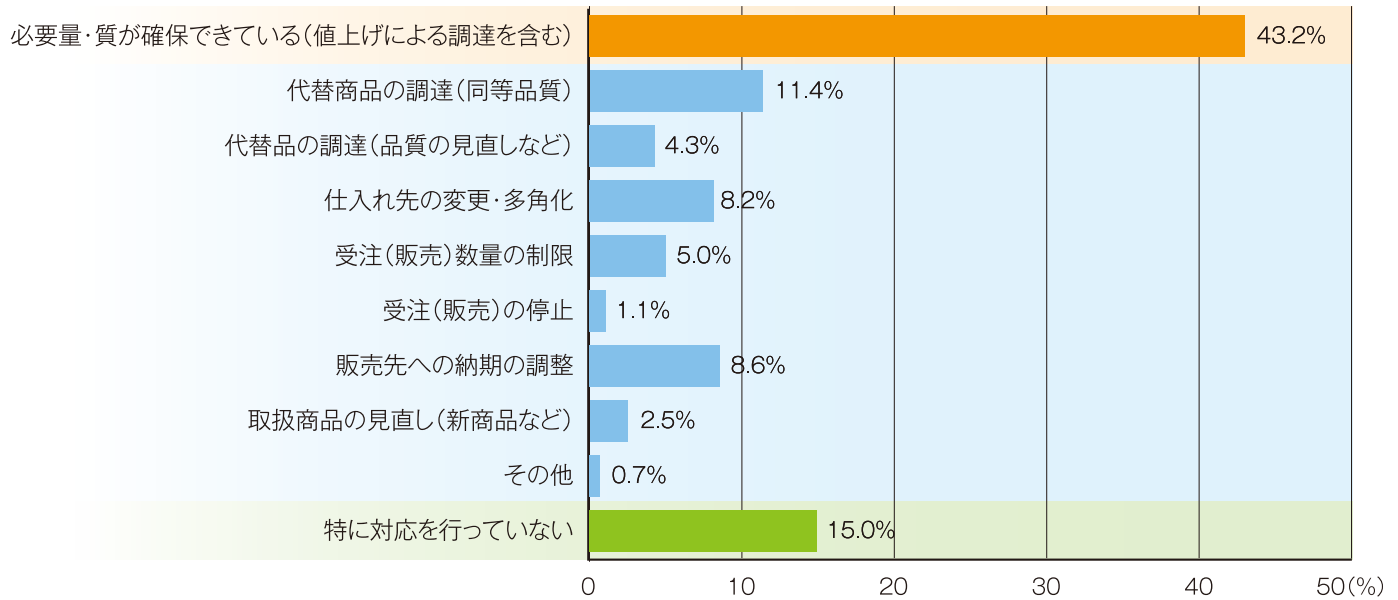
問2 原材料・仕入価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか。



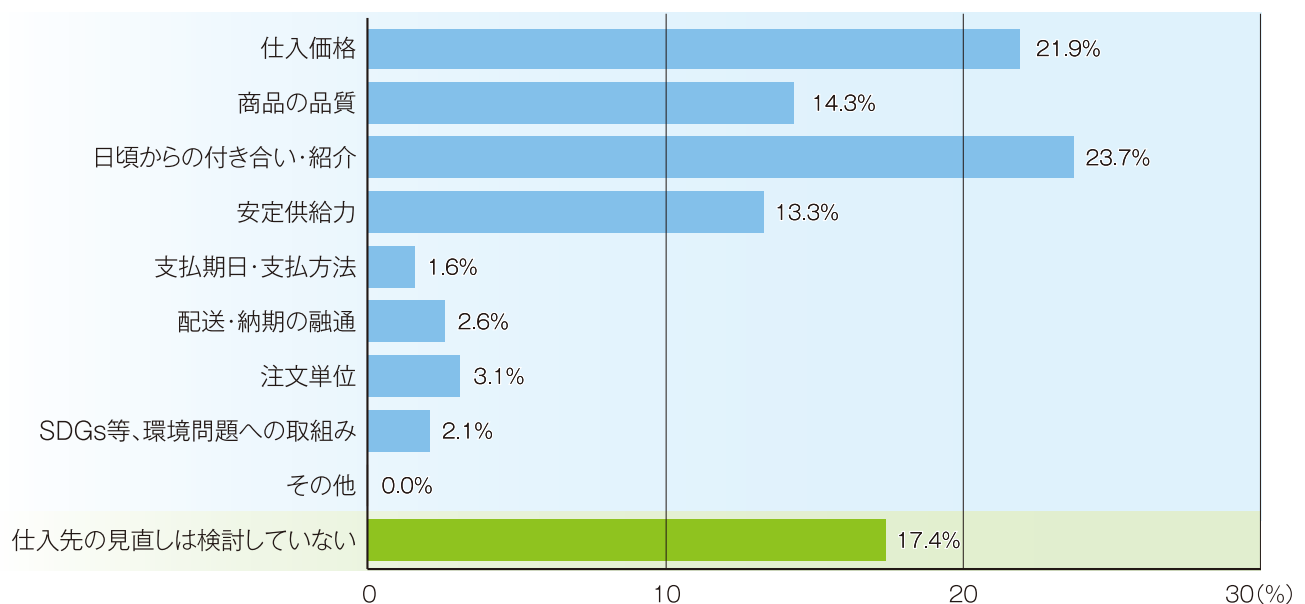
問3 原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。



問4 原材料・仕入については、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。問題を抱えている方は現在行っている対策を最大3つまでお答えください。



問5 仕入先の見直し等を検討するにあたって、重視する点がありますか。



最近の原材料・仕入価格の上昇により、8割超の企業が何らかの悪影響を受けており、業種別では、製造業、卸売業と建設業で「悪影響」の割合が高かった。

1年前と比較した原材料・仕入価格は、95.7%の企業が「上昇」と回答し、卸売業と建設業においては「上昇」の回答が100.0%となった。

原材料・仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できている企業が多いものの、22.9%の企業では転嫁できておらず、業種別では小売業が32.6%と最も高く、転嫁が進んでいない状況である。

仕入れ先の見直しを検討するにあたり重視する点は、製造業と卸売業、建設業が「日頃からの付き合い・紹介」、サービス業が「仕入価格」となった。小売業では「仕入先の見直しは検討していない」が最多となった。

その他、水道光熱費や燃料費等の高騰により諸経費が増加している、包装資材の値上げによる影響を受けているとの回答があった。

●ご利用いただける方

当金庫の普通預金口座（総合口座を含みます）、決済用預金、随時カードローンをお持ちの個人・個人事業主のお客さま
※キャッシュカードをお持ちでないお客さまは、キャッシュカードの発行が必要です。

●ご利用いただけるサービス

《残高照会》

登録した口座の残高が確認できます。

《入出金明細照会》

通帳アプリへの切替後、最大10年分の取引明細が確認できます。

《保有資産照会》

各資産（預金、債券、投資信託、保険）の明細が確認できます。

《検索機能・メモ機能・保存機能》

期間・金額・メモ情報などから明細を探せます。また、各明細にメモ情報を書いたり、過去の明細をファイル保存できます。

●ご留意いただきたい事項

- 紙通帳から通帳アプリに切り替えた場合、これまで使用していた紙通帳はご使用いただけなくなり、**ATMでのお取引はキャッシュカードのみになります。**
- 紙通帳から通帳アプリに切り替えた場合、切替時点で通帳に記帳されていない取引明細は**切替日の翌々日から、通帳アプリでご覧いただけます。**なお、切替前に紙通帳に記帳されている取引明細については、通帳アプリではご覧いただけません。
- 通帳アプリをご利用の口座を紙通帳へ切り替えする際には、ご来店いただく必要があり、**当金庫所定の通帳再発行手数料がかかります。**
- 10年を経過した明細はご確認いただけなくなります。**必要に応じてスマートフォンよりダウンロード（保存）をお願いいたします。
- 窓口でのお取引の際には、スマートフォン・お届け印・本人確認書類・キャッシュカードをご持参ください。

〈すしん〉景況レポート No.20

発行：須賀川信用金庫
〒962-0054 福島県須賀川市牛袋町121-1
発行年月：2022年5月
編集：総合企画部 TEL 0248-75-3176

<https://www.sushin.co.jp>

